**沖縄からの平和アピール**

本日6月23日、沖縄は「慰霊の日」を迎えた。

77年前、沖縄では3ヵ月にわたり、第二次世界大戦における国内最大の地上戦が続いた。その結果、約20万人もの方々の尊い命が奪われた。

私たち連合は、沖縄戦でのすべての犠牲者に対し、心から哀悼の意を捧げる。

そして、この悲劇を二度と繰り返してはならない。今ここに改めて誓う。

本年、沖縄の本土復帰から50年が経過した。沖縄の本土復帰に尽力をされた先人たちの苦労と現在に至るたゆまぬ努力は、畏敬の念に堪えない。

しかし今なお、在日米軍基地・施設の約70％が沖縄に集中している。沖縄の基地負担は、一向に軽減されていない。

全国においても、米軍基地に関係する事件・事故が後を絶たない。その解決の前には日米地位協定という壁が立ちはだかり、私たちの不安は残ったままである。

本年2月、ロシアによるウクライナ軍事侵攻が開始された。私たちは、国際法にもとづく平和や秩序が突然破壊される暴挙を目の当たりにした。

この暴挙に対して厳しく非難するとともに、私たちが暮らし、働く、自由で民主的な社会の意義、それを支えることの重要性を改めて認識しなければならない。

一方、この機に乗じた行き過ぎた軍備拡張の声に対しては、自制と冷静な国民的議論を求める。日本は、国連を中心とする国際協調主義に立ち、アジア・太平洋諸国との連携にもとづく地域の安定、および世界平和の実現に向けて、積極的な役割を果たさなければならない。

米軍基地や日米地位協定に関する問題は、沖縄だけではなく日本全体の問題であり、日本に暮らし、働く私たちすべての課題である。

私たち連合は、これからも日本全体の問題として、政府に対し「在日米軍基地の整理・縮小」と「日米地位協定の抜本的見直し」を強く求めていく。

平和で安心な社会は、私たちが暮らし、働く上で絶対に欠かすことができない。

「2022平和行動in沖縄」に結集した私たちは、「沖縄戦の悲劇を二度と繰り返させない」「沖縄が直面する問題の実相を学び、その解決に取り組んでいく」「世界の恒久平和の実現に向けて運動を進めていく」。このことを確認し、今後も粘り強く運動を進めていくことをここに誓い合う。

2022年6月23日

連合2022平和オキナワ集会